

参加報告書

秦野貴光（筑波大学 人文社会系）

2019年11月7日から9日にかけて、韓国のソウルで開催された第19回東アジア国連システム・セミナーに参加した。本セミナーの共通テーマは「東アジアにおける多国間主義と国連」であった。今日の国際社会が直面する様々なグローバル・イシューを解決するためには多国間主義に立ち返ることが必要であるという共通認識に立ちながら、デジタル技術革命、東アジアにおける地域安全保障、SDGs、文化交流といった様々なトピックを巡り熱い議論が交わされた。

私は二日目の午後に行われたセッション 2-1「朝鮮半島における平和構築」に登壇し、「北東アジアにおける地域安全保障と平和構築」という題目で報告を行った。本報告では、まず世界の各地域の実情に応じた平和構築の取り組みと実践の必要性を指摘した。次に、いわゆる破綻国家が存在しない北東アジアにおける平和構築の主眼は国家建設ではなく国家間の関係改善（*rapprochement*）であることを述べた上で、北東アジア諸国間の関係改善に寄与するとされてきた諸要因に関する検討を行った。北東アジアにおける平和構築ならびに国家間関係の改善に関する先行研究の多くは、非公式ネットワーク、トラック2外交、文化外交、そして非国家主体といった要因やアクターに着目してきた。しかし、昨今の日韓関係の冷え込みが民間レベルでの交流に悪い影響を及ぼしたことから明らかなように、こうした要因が北東アジアにおける平和構築において果たす役割とその有効性はその時々政府間関係のあり方に大きく左右されるのであり、北東アジアにおける平和構築を推進するためには政府間関係の改善が欠かせない。本報告では「政治の卓越性（*primacy of politics*）」の概念に着目しつつ、政府間レベルでの外交努力を通じて政治協力を深めていくことでしか北東アジアにおける平和構築は実現できないこと、そして政治協力を深めていく上で日中韓首脳会議を定例化することが重要であることを指摘した。

報告後、本セッションの座長を務めていただいた長谷川祐弘先生や討論者を務めていただいた水野孝昭先生をはじめ、参加者の方々から貴重なコメントと助言を得ることができた。また、会食やコーヒブレイクなどを通して各国からの参加者と交流や意見交換をすることができ大変有意義であった。このような貴重な体験をさせていただいたことに深く感謝するとともに、今回の経験を今後の研究・教育活動に活かしていきたい。